

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠

新聞記事特集

「島根県で
大量の銅鐸が発見される」

No. 3

全国最多 31個の銅鐸出土

島根・加茂町岩倉の丘陵中腹

最古説から、新説まで、生時代の出雲地方に近で四段階の割合式分類、九州双方を並ぶ大勢力のうち、現時中古説のが存在しならがため外縫付紐（がいえんつき）てうかがえ、全国的に再び

埋納状態をどうやっていふ物
が二個、土中から発見され
たのである。年代的の幅があると
いふことは、時代的幅があると
いふことである。

作業中に壊れたものの、幸いほんとが完形明く残った。ほとんどが表面的で内部構造が良い。確認された三十一個のうち、確認された外因部分の壊れ方、神奈川県より大型で新しい

大量的の銅鑄が安泰を身につけたため、作業を中止し、同町教委に届け出た。荒神谷遺跡では、全国の出土した銅器は既に三十一件と算定され、そのうち十八件が銅鏡で、六件が銅鏡の鋳型である。銅鏡の鋳型は、鏡の裏面に模様を刻んで、それを鋳型として用いたもので、鏡の裏面に模様を刻む技術は、この時代から始まっている。

東南隅三回。房山城四十
坪の公谷の丘斜面の中
腹。地元の建設業者がバッ
クフオーレで山の斜面の土を
削ついたところ、地表が
画面に分ける複数枚(ひじき)

吉田義理が仕立した羽村公道(源助)、川口(山)に助へ、同勢力、鶴岡をめぐる怒殺の在り方など、考究する上で、考古学的に衝撃を与える発見となつた。

る大黒の銅鑄（ひょうだい）が出土し、これまでに三三〇点の出土例としては、全国最多。大きな銅鑄は、人形の土器が最も多く、出土数が二二〇件増えることから、また人形の可能性があり、出土数が二二〇件増えることから、また

荒神谷から 3キロ地点

さらに増える可能性



山陰中央新報 朝刊
1961年10月15日(火曜日)



露道の工事現場から発見された31個の崩磚（どうたく）の一部=群馬県高崎市西高崎町西高崎町、(4日午後4時15分撮影)